

# Smile

27年 1月

第53号



## 麦久保園だより



今年も  
よろしく  
お願いします。

HP <http://www.mugikubo.jp>E-mail [mugi@dream.ocn.ne.jp](mailto:mugi@dream.ocn.ne.jp)

### 新年に想う

常務理事

園長 野村 和郎

年頭にあたり皆様のご多幸、ご健勝を心よりご祈念申し上げます。

さて、大相撲の「白鵬」や朝の連続ドラマ「マッサン」の「エリー」が日本人より日本人らしいと言われています。そこで5年位前に読んだエッセー集

「日本人へ」（私が伝え残したいこと）を引っぱり出して読んでみました。多くの著名人が後世に残したい日本の、そして日本人の素晴らしさを書かれています。

一部を紹介させて頂きます。

大正から昭和にかけての日本の教育は働くことが美德で、強いということは誇りを持つていくということ、又戦後の急速な復興、経済成長は努力勤勉、忍耐克己の教えによるものとしていきます。しかし、現在の物質文明の進歩は人として避けられない世の中の理不尽、不如意に対して精神的強さを失わせている。いつか必ず来るだろう苦難絶望の日に、今は日本人の心の中に眠っている強い精神力が蘇ることを念じるばかりです。と閉めています。

次の方は美德を後世に伝える事の重要性を書かれました。

一人のお年寄りが人生で修得した知識、技術、

知恵、経験、文化、時代観等は図書館1館に相当するそうです。「色々な人の一生を傾聴して文章化していますが、最後には皆さん無量の言葉を残す」と書いています。「今日も1日ありがとうございます。心の底から感謝する気持ちでしたら、本当に全ての欲も得も無くなって気持ちがすーっと楽になりました。この感謝する心を授けていただいた事が私たちの一生の財産」これからの日本人に語り伝えるべきものは、実は身近にいる父母、祖父母の人生の記録ではないか、と書かれました。

もう一人は自分も好きな某女子大の学長さんで、自分と同じ年の先生です。「日本の精神」と言うとき多くの人は武士道をあげるかも知れませんが。しかし武士道は歴史的には短期間で、一部の階級の人達が信奉した道徳と言えます。

古今集に多くうたわれている日本の四季の素晴らしさ、盛りの花は必ず散る、世の中の森羅万象は全て、権力は移ろい、美女も年老い、恋の情熱も衰える、この世のものは全て常ならず移ろうからこそ、その一瞬がかけがえない時間としていとおしいと言う。そう言う日本の美意識と「ものあわれ」を知る心だけは、自然と切り離された都会で生活している多くの日本人に是非伝えたいとしています。それぞれの方が異なる視点で日本に残したい感性を伝えています。何か感じて頂けるもの

があつたら幸いです。

最後に自分が仕事にしている社会福祉に關連して書かせて頂きます。

福祉にはその形態から自助、互助、共助、公助に分類出来ます。時代と共にその役割、価値観も変わつて来たと思ひます。

今の介護保険による経営は共助に分類され、介護予防の視点から自助、そして国家としての責任から公助の必要性が指摘されています。しかし、福祉の原点は互助にあつたと思ひます。在宅での介護、そして地域包括でのケアが重要視されている現状は、ある意味で忘れられていた日本の福祉の心、互助の精神に戻ろうとしている様にも感じられます。家族、隣組、自治会そして職場等、常に近くに居る人との人間関係は忘れてはならない互助の、いや福祉の原点ではないでしょうか。それが今すぐく希薄に感じます。

自然災害、世界のグローバル化等、個人の力では仕様のない大きな動きを感じた昨年でしたが、今年の世界が、そして日本が穏やかで平和な年になりますようご祈念申し上げます、併せて当園への変わらぬご支援、ご高配を賜りますようお願い申し上げます、年頭の言葉とさせていただきます。



麦久保園重点目標

- ・誰にでも歴史があつて今がある。
- ・信頼は積極的な発言から。
- ・成長は言葉、行動、気配りで。



迎春

職員一同  
今年も笑顔で  
頑張ります！



# 介護の日懇親会



「介護の日」は厚生労働省が「介護について理解と認識を深め、介護従事者、介護サービス利用者及び介護家族を支援するとともに、利用者、家族、介護従事者、それらを取り巻く地域社会における支え合いや交流を促進する観点から、高齢者や障害者等に対する介護に関し、国民への啓発を重点的に実施するための日」として11月11日を「介護の日」と決めたとのこと。「いい日、いい日、毎日、あったか介護ありがとう」を念頭に「いい日、いい日」にかけた覚えやすく、親しみやすいごろ合わせです。

当園でも「地域交流」の一貫として、懇親会形式を取り、毎回実施内容、方法を工夫しながら、去る11月11日（火）第6回となる「介護の日懇親会」を実施しました。

今回は地域サービスの現状とこれからの展望をテーマに在宅サービスを実施されている

「あすなるみんなの家」今施設長にお手伝い



頂き地域住民の方31名が参加され、有意義な時間が持てました。今後も毎年定期的（11月11日）に開催して地域交流を図りたいと思います。



## 感染症予防対策にご協力下さい！

Smile 25号（2014.9.1 発行）で「感染症の流行が心配される時期が近づいて来ました。」とお知らせしましたが、「インフルエンザ」の集団感染の情報が多く入って来ています。昨年11月後半から12月前半にインフルエンザではありましたが「風邪症状」を訴えられる方が施設内でも多くなり、面会や行事を一部制限する等、皆様にご協力頂き終息する事が出来ました。幸い施設内で「インフルエンザ」の感染は現在ございません。感染予防には「手洗い」「うがい」の励行が一番

の様です。当園でも日頃から習慣として取り組んでいます。皆様、ご来園の際は「手洗い」「うがい」のご協力をお願いします。

麦久保園 感染症委員会

## 第三者評価の結果ができました！

職員説明会、職員自己評価から始まり、ご利用者調査、経営会議、訪問調査（10月23日）まで約2ヶ月を要した。第三者機関（福祉をよくする市民の会）による評価が終了し、先日「評価結果報告」を手にしました。

組織マネジメント、サービスプロセス、ご利用者アンケート（ご意見）と多岐に亘る視点から「特に良いと思う点」「更なる改善が望まれる点」として各々3点を出して頂きました。

施設では現在、平成27年度事業計画（案）を立案している時期です。今回の評価結果を参考により良い施設運営、サービス提供に向けて事業計画（案）に反映します。

尚、評価結果の詳細は「とうきょう福祉ナビゲーション」通称「福ナビ」をご覧ください。

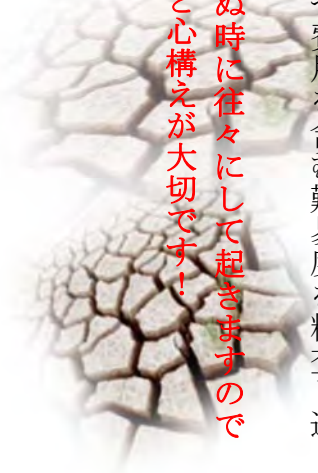
(<http://www.fukunavi.or.jp/fukunavi/>)

設備変更から見えた災害(停電) 対策

冬本番前の 11 月 22 日(土) 空調設備の入替え工事を実施しました。今回入れ替えた空調設備は 3 ユニット 12 基による分散稼働方式の為、設備故障による館内空調の全停止のリスクが大幅に軽減され住環境の改善につながったと思います。(従来の設備は集中稼働方式であった為、全停止のリスクが大きかった)

今回の工事実施に於いて課題となったものが「長時間の停電(6時間〜8時間)」でした。工事という事で施工業者と事前にスケジュール調整し、施設で想定される「リスク」を各部署代表により打合せを行い、ご利用者の日常生活への影響が極力出ない様準備を進め、当初の目的は充分に果たせたと思います。ただ長時間であった為、検討段階で気付かなかった点も新たに出て来ました。今後リスクマネジメント委員会、BCP対策委員会で検討を進めて改善を図りたいと思います。改善実施は緊急性や費用を含む難易度を精査し進めます。

災害は予期せぬ時に往々にして起きますので 普段の準備と心構えが大切です!



ボランティア募集

●外出時の付き添い

買い物、食事の他、ドライブ等の外出行事の付き添い

●シーツ交換

毎週土、日に行っているシーツ交換のお手伝い  
その他、ご興味のある方、活動希望の方、ボランティア担当まで連絡をお願いします。  
(担当 大野 鈴木まで)



●ホームページのご案内

麦久保園ホームページを是非ご覧下さい。  
(表紙URLより検索下さい。)  
月刊広報誌「陽なたぼっこ」等を随時掲載しております。

●送迎のご案内

皆様のご面会、ご来園を心からお待ちしております。送迎車も運行しておりますので、御利用の際は前日までにご連絡下さいますようお願い致します。

(電話 042-550-2201)

《編集後記》

皆様良き新年をお迎えのことと存じます。振り返りますと昨年も大きな出来事がたくさんありました。エボラ出血熱が世界で猛威を振り未だ終息の兆しが見えませんが、銀幕の世界では昭和の名優がひとり、またひとりこの世を去り時代の流れを感じました。明るい話題では日本人初全米オープンテニス決勝進出、ノーベル賞受賞等のニュースも続々と届き嬉しい限りです!

麦久保園もまた一年、ご利用者、職員、そして広報委員共々、笑顔で穏やかに過ごしたいと思えます。皆様のご意見、ご感想をお聞かせ頂ければ幸いです。

発行所 社会福祉法人 福信会  
特別養護老人ホーム 麦久保園  
短期入所生活介護(ショートステイ)  
介護保険事業者番号 一三七四九〇〇一六三  
居宅介護支援事業所 ケアサービス 麦久保  
介護保険事業者番号 一三七五二〇〇一五九  
〒一九七〇八〇二 あきる野市草花二、二一九  
TEL 〇四二一五五〇〇一(代)  
FAX 〇四二一五五〇〇一(代)  
発行人 野村和郎  
編集 麦久保園広報委員会

